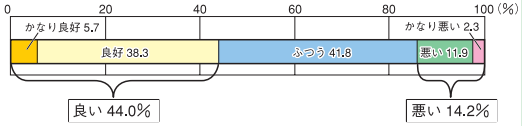
横浜の環境

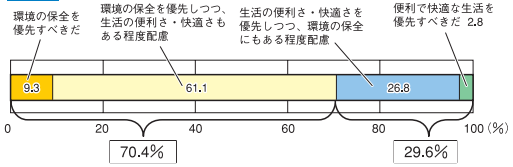
横浜市における様々な環境の現状や取組状況についてお知らせします。
横浜の環境のことを知っていただき、一人ひとりができることを考えてみませんか。

アンケート結果から、市民の皆さんの環境への関心の高さがうかがえます。

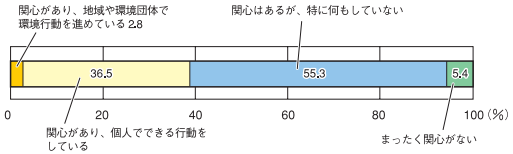
設問 横浜の環境の現状について、どのように感じますか？



設問 環境の保全と生活の便利さ・快適さの優先度は？



設問 環境に対する関心や行動についてうかがいます。最も近いものを１つお選びください。



【環境に関する市民意識調査（平成 23 年 9 月インターネットによる調査）より】

横浜の環境の現状についてどのように感じているかという質問に対して、「ふつう」という回答が41.8%と一番多いものの、「かなり良好・良好」という回答の合計も 44.0%あります。

また、環境の保全と生活の便利さ・快適さの優先度を質問した回答では、「環境の保全を優先」という回答が 70%を超えています。環境に対する意識が高い市民が多いことがうかがえます。

環境に対する関心や行動については、「関心はあるが、特に何もしていない」（55.3%）が最も多く、関心はあっても行動を起こすというところまで至っていないという状況が分かります。

多くの皆さんが持っている環境への高い関心を行動につなげるための“ キッカケ ”をつくることができれば、活動への参加や個人でできる行動の実践が進むと考えます。

「横浜市環境管理計画」

横浜市は、環境行政を総合的に進めていくための計画として、平成 23 年 4 月に、新たな「横浜市環境管理計画」を策定しました。

● 環境行政の総合的な推進

地球温暖化対策、生物多様性の２つのテーマに重点をおき、市民生活（子育て・健康福祉・地域社会等）、経済、まちづくりなどあらゆる分野との連携により、総合的に施策を推進します。

● 環境行政のプロセス管理

環境管理計画を着実に推進するため、個々の施策の取組状況の把握に留まらず、総合的な振り返りや評価、以降の取組へのフィードバックを含めたプロセス管理を基軸に据え、進行管理を行います。

このリーフレット「横浜の環境」は、環境に関する横浜市の取組などをまとめた横浜市環境管理計画年次報告書「横浜の環境」（平成 23 年版）の概要を掲載しています。年次報告書では、より細かな環境の現状、横浜市の取組を紹介しています。ぜひご一読ください。

横浜市環境管理計画、年次報告書等は、市役所市民情報センター（市庁舎１階）、区役所、市立図書館で閲覧できます。また、ホームページからもダウンロードすることもできます。

http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/etc/jyorei/keikaku/kanri/

「生物多様性」って知ってますか？

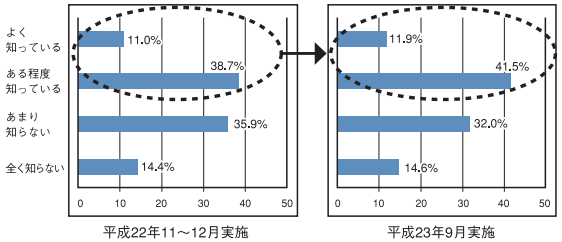
最近「生物多様性」という言葉をよく耳にしませんか？

平成 22 年名古屋で、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催され、国内でも盛んにメディアに取り上げられた影響か「生物多様性」の認知度は上がってきています。

「生物多様性」という言葉を知っているという方は年々増えていて、平成 23 年度に実施した「環境に関する市民意識調査」の結果、「よく知っている」、「ある程度知っている」という方の合計が、53.4%と、はじめて 5 割を超えました。また、生物多様性の危機を身近な問題と意識しているという方も 6 割を超えて、生物多様性の保全に対する意識が高まっています。「生物多様性」は、これからの環境を考えるうえで、重要なキーワードです。

「生物多様性」とは……

生物多様性とは、様々な自然が存在し、そこにすむ生きものたちそれぞれが個性をもち、お互いが影響し合って豊かな生態系を保っていることをいいます。私たちの暮らしは、衣食住から経済・文化・安全まであらゆる場面において、生物多様性がもたらす恵みに支えられています。



【環境に関する市民意識調査より】

横浜市では「生物多様性」の取組を推進しています。

～横浜市生物多様性キャッチフレーズ～

子どもたちが自然や生き物と触れあう体験の重要性、これまでに蓄積された市民・企業の行動力、豊かな自然環境が身近にあるという環境面での強みなど、横浜市の特性を活かして、生物多様性の保全・再生へつなげていきます。

横浜市では、生物多様性の保全、創造の取組を進めていくため、生物多様性横浜行動計画、**ヨコハマbプラン**（「b」は生物多様性＝biodiversity（バイオダイバーシティ）の「b」）を策定しました。

市民参加による田んぼの生きもの調査

田んぼは、お米をつくる場所というだけではなく、生きもののすみかになるなど、生物多様性がとても豊かな場所です。

平成 23 年 8 月に新治恵みの里にある田んぼで、市民の皆さんとともに生きもの調査を行い、87種類もの生きものを観察することができました。田んぼが、多くの生き物や多様な環境も育んでいるという、多面的機能について、実感しながら学ぶ、よい機会となりました。

チビアメバチの仲間の繭

もっと横浜の環境について知りたいと思ってくださった皆さんへ

横浜市環境創造局ホームページ　**http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/**

よこはまエコアクションポータルサイト「エコぽると」　**http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kkjs/**

環境創造局ツイッターはじめたよ！
http://twitter.com/yokohama_kankyo

「エコぽると」キャラクター エコぽん

環境創造局ツイッター

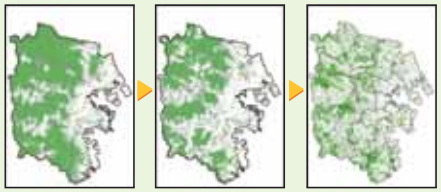
● 横浜市環境創造局政策調整部政策課
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1　TEL：045-671-2891　FAX：045-641-3490

平成 24 年 1 月発行

大切な「みどり」の保全・創出を、皆さんとの協働により進めています。

横浜みどりアップ計画

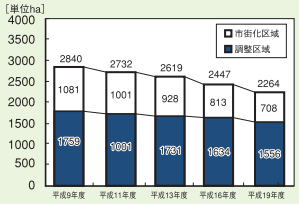
緑は一度失われると回復が困難ですが、横浜市では、都市化の進展に伴い**山林・農地が失われて**きました。また、平成 20 年度に実施した「横浜の緑に関する市民意識調査」では、緑の増加や維持を求める声が約 98%と極めて高くなっており、緑の保全・創造は緊急に取り組まなければならない課題となっています。



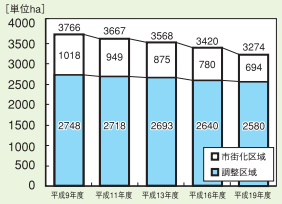
昭和 45 年（緑被率　約 **50%**）　昭和 55 年（緑被率　約 **40%**）　平成 21 年（緑被率　約**29.8%**）

緑被率の推移

※緑被率は、調査年度によって、調査手法や精度が異なるため、概ねの傾向を示したものです



山林の面積推移



農地の面積推移

※固定資産概要調書等をもとに集計（農地については生産緑地地区・市街化調整区域内の農地を対象に集計）

農地の減少も、「緑」の総量が減少してきた一因としてあげられます。

農地は、新鮮な農産物を皆さんに提供するだけでなく、生物多様性の保全やヒートアイランド現象の緩和・災害対策など多面的な機能を持っています。横浜産の農産物を皆さんに積極的に食していただき、良好な農地の保全につなげています。

横浜ブランド農産物キャラクター
はま菜ちゃん

横浜市では、緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承するため、平成 21 年度から、**「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」**を推進しています。この取組は、皆さんにご負担いただいている**「横浜みどり税」**を財源の一部に充てており、「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」の 3 つの柱に沿って進めています。

平成 22 年度までの主な成果として、緑地保全制度指定により新たに **205.3haの樹林地を保全**したほか、10 年間の水稲耕作を条件に支援を行う制度を創設し **100.2ha の水田を保全**、さらに、幼稚園や保育園、小中学校の**園庭・校庭の芝生化を67か所で実施**し、市民が身近に緑に親しむ場を創出したことなどがあげられます。

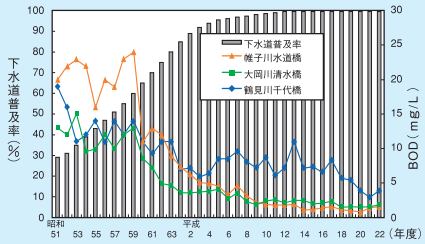
空気や水は、燃料の良質化や下水道の整備及び工場等の規制・指導などできれいになっています。

水環境事業
キャラクター
かぼのだいちゃん

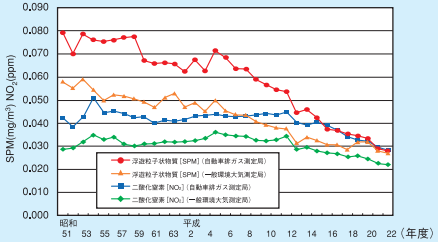
代表的な大気汚染物質である二酸化窒素の年平均値は、燃料の良質化や工場・事業場に対する規制・指導や自動車排ガス規制の強化によって**継続的に改善**しています。

河川の水質は、下水道の整備や工場の排水規制によって、**大きく改善**しています。

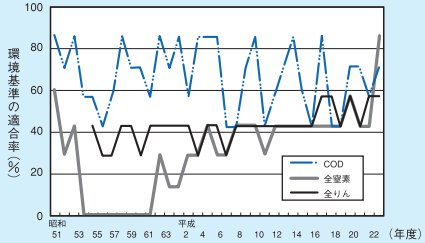
横浜沿岸域の水質は、有機汚濁の指標である COD、富栄養化の原因となる全窒素及び全りんについては、**まだまだ課題があり**、下水の高度処理化などの放流水質改善を進めています。



下水道普及率と河川水質（BOD75%値の推移）



大気汚染物質の年平均値の推移



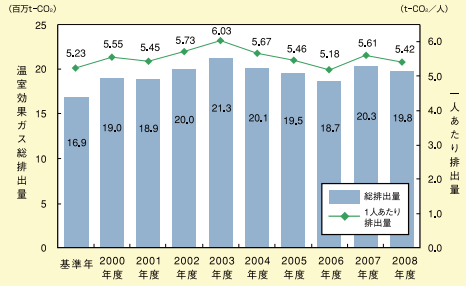
横浜沿岸域における COD、全窒素及び全りんの環境基準適合状況の推移

皆さんと一緒に、CO_2 削減と省エネに取り組みます。

横浜市脱温暖化イメージキャラクター
みんなのアース君

横浜市の平成 20 年度の温室効果ガス排出量は約 1,979 万 t で、**日本全国の排出量の約1.5%**を占めます。

排出量の大部分を占める二酸化炭素の排出構成を全国の排出構成と比べると、産業部門の占める割合が低く、エネルギー転換部門（石油精製、電気事業、ガス事業におけるエネルギー転換に伴う排出）、家庭部門（家庭生活からの排出）の割合が高くなっています。



横浜市の温室効果ガス排出量の推移

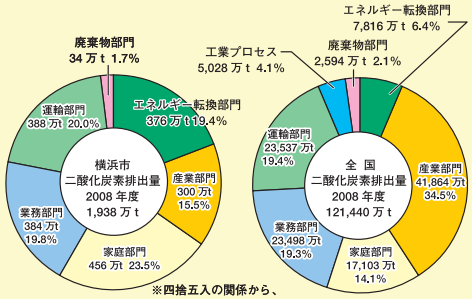
Yokohama エコ活。
あなたの毎日に、エコをプラスしよう。

平成23年の夏、横浜市では皆さんに節電をお願いしました。平成 23 年の 7～ 9 月の横浜市域での使用電力量は前年に比べて**▲15.3%**となり節電に成功しました。※　皆さん一人ひとりの**「エコ活。」**が夏の電力不足対策として大きな力となることを証明しました。

※東京電力の区域別の都合上、横浜市域と完全に一致しておりません。

また、横浜市では、皆さんが安心・安全にエネルギーを使用できる“ 快適かつ低炭素な都市の実現 ”を目指して**「横浜スマートシティプロジェクト」**を推進しています。

※横浜スマートシティプロジェクト（YSCP）：民間企業と共同で、スマートグリッド（次世代電力網）関連技術などを実証するプロジェクトです。



※四捨五入の関係から、
合計と内訳が合わない箇所があります。

横浜市及び全国の CO_2 排出量と部門別の構成比較（平成 20（2008）年度）

★横浜市が「環境未来都市」に選定！

「環境未来都市」は、環境や超高齢化対応などの先進施策に取り組む都市を国が選定し、様々な支援を行うことで、成功事例を創出し国内外への普及展開を目指す施策です。

横浜市は、スマートシティの市域全体での実現や上下水道技術の海外展開、コンパクトなまちづくり、文化芸術振興・MICE 誘致などを国に対して提案し、平成 23 年 12 月に選定されました。

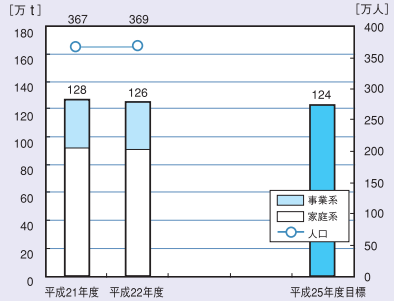
新たなステージに挑戦し、さらなるごみの減量化・資源化が進んでいます。

「ヨコハマ 3R 夢！」
マスコット　イーオ

これまで皆さんとともに進めてきました横浜Ｇ３０ プランにつづく新たな計画**「ヨコハマ ３ R夢（スリム）プラン」**を平成23年1月に策定しました。

循環型社会の実現を目指して“分別･リサイクル”はもちろんのこと、市民・事業者の皆さんとさらに連携し、ごみとなるものを減らす**発生抑制（リデュース）**の取組を推進します。

平成 22 年度の全市の総排出量（ごみと資源の総量）は、約 126 万 t で、平成 21 年度に対して 1.1%（約 1.4 万 t）**減少しました。**



ごみと資源の総量及び人口の推移